目次　（簡易版）

1. はじめに

2. FIWC について

3. ネパールについて

4. スケジュール

5. ワーク

6. イベント

7. 生活状況

8. 保険

9. 会計報告

1. はじめに

「繋がり」

私たちが大切にしたのは人と人の繋がり

2015 年 4 月 25 日ネパールで起こった大地震テレビのニュースでみていた遠い国の出来事直接現地に行くわけでもなく、支援をしたわけでもなくただただ心を痛めることしかできなかった

けれど、身近な人がこのネパールという国を支援していた震災後の様子をきいた
全く関わりのなかったネパールという国が自分たちにとっても身近な国になったネパールの国の話が「他人事」ではなく「我が事」になったここで私たちとネパールは繋がった

震災前のネパールを知らない私たちは地震で壊れた家や村をみて
地震の被害の大きさはわかっても

村人の生活が、人生が、
地震によってどれだけ奪われたのかはわからない

もともとそこにあったはずのものを知らないからあったものがなくなる怖さを知らないから

けれど私たちはこれから
なくなったものを取り戻す喜びを知ることができる

人と人が協力して助け合っていく様子をみることが
できる私たちは記録となった過去とともに未来へと
現在を歩んでいける
「繋ぐ」
人の縁が繋がって繋がってここまできた。だから繋ぐ、私たちも。

2015 年 4 月 25 日マグニチュード 7.8 の大地震がネパールを襲った。元来地震が多い地域であるものの、建物はレンガ積みの耐震性のない脆弱な構造のものが多いネパール。レンガ積みなのはネパールのこの地で粘土質の土がよくとれるから。「ネパールにはネパールの土で作った建物が一番合う」というこの国を愛する気持ちもここでは地震の被害を大きくした要因となったのである。また、国土の多くを山岳地帯が占めており、地滑りが発生しやすいという環境的要因も大きかった。

国家としての基盤も脆弱であり、長年内乱を続けていたが地震を機に国内復興の名のもと憲法を成立させ国を統一するという皮肉な状況も持ち合わせていた。

最も被害が多かったと言われる震源地近くの村は、土砂崩れにより村のすべてがすっぽりと土砂に覆われていた。村があったはずの場所には草木が生え、広大な土地が広がっていた。まるでもとからそこには村などなかったかのように。かつて、そこで人々が生活を送っていた軌跡を消し去るかのように。地震から多くの人の命が奪われ、そこにまた新たな植物の息吹が芽生えるほどに 2 年という年月は大きなものであった。私たちが日本で何
も知らずに生活をしている間に、地震による爪痕も風化していっていた。

2．FIWC とは

Friends
International
Work
Camp

FIWC とは、フレンズ国際ワークキャンプ（Friends International Work Camp）の略称です。第二次世界大戦後復興のため、アメリカ・フレンズ奉仕団（AFSC）がワークキャンプを日本で実施しました。そして、1950 年代に AFSC から独立し、FIWC が結成されました。私たちの FIWC の「フレンズ」はその精神を受け継ごうという意思から採られています。

依頼 FIWC は、国内外でワークキャンプを 60 年以上実施しています。

現在その支部は全国に広がり、FIWC 関西委員会、関東委員会、東海委員会、九州委員会が活動しています。九州委員会では、フィリピンキャンプ・中国キャンプ・国内活動を軸に活動してきており、2017 年にこのネパールキャンプが発足しました。今回ともに行った関東委員会ではフィリピンキャンプ・ネパールキャンプ・中国キャンプ・韓国キャンプがあり、それぞれで現地が抱える問題の解決に取り組んでいます。

FIWC は一般市民、学生による非政府組織（NGO）であり、いかなる政治・宗教団体とも一切関係のない学生団体であるということは活動地域でも確認をとったうえで活動を行っています。

◎FIWC 九州委員会

FIWC 九州は九州(主に福岡)の大学生が主体となり、学生のみで国内外の国際協力を行っている学生 NGO 団体です。フィリピンキャンプ・中国キャンプ・国内活動の 3 つを軸に活動してきた九州委員会ですが、そこに今回はネパール震災支援キャンプが加わりました。

【中国キャンプ】 中国のハンセン病快復村へ行き、村人のケアやインフラ整備などの支援を中国民間 NPO
－JIA―の広州地区委員会と協力して行う。

【フィリピンキャンプ】 フィリピンレイテ島の貧困層を訪れ、インフラ整備を村人とともに行いながら交流を図る。現在はタバンゴ市にて活動している。

【国内活動】

〇耶馬渓キャンプ 年 3 回大分県の耶馬渓で農家をしている方の家に泊めてもらい、農業体験をさせてもらいながら苗床づくりから収穫までの一部をお手伝いさせてもらう。

〇FP（FIWC Party）

月 1 回程度、博多の「びおとーぷ」で行っている勉強会＆交流会。FIWC だけでなく、国際協力を実際に行っているさまざまな人を講師としてお呼びすることもあり、互いに刺激し合う場となっている。

〇その他

学祭、まんぱ（Monthly Party)、総会、国内合宿など。他にも国際協力フェスティバルへの参加や、大運動会、写真展など多様なイベントを行っている。自由な発想で自由な活動を行っている柔軟さが FIWC 九州の特徴である。

【ネパールキャンプ】 震災支援キャンプとして関東で 2015 年に立ち上がり、それを今年から九州委員会が引き継ぐ形となる。ネパール首都カトマンズ近郊メールダラ村で水問題の解決を村人と共に行いながら交流を図る。

ネパール震災支援キャンプ関東委員会から九州委員会へ　ネパールワークキャンプは10 年以上前、はじめて FIWC 関東委員会で行われました。それ以降主に単身でネパールに住み込みパルパ郡で支援活動を行う OK バジ（垣見一雅）と深いかかわりを持ちながら、様々なワークを行ってきました。幼児教室建設、トイレ建設、道路舗装、バイオガストイレ建設、貯水タンク建設とその活動目的は多岐にわたります。
2015　年 4 月のネパール大震災を契機に、この過去のつながりとは別にネパールOB・OG を中心とした震災支援としてのネパールキャンプが 1 からのスタート。2015 年 9 月に下見キャンプを実施したことによってつながった日本のネパール教育支援学生団体 TAP~Smile for Nepal~。そのメンバーが拠点とするメールダラ地区にて震災の影響で井戸が枯渇しているという話を受け、FIWC としてワークキャンプの検討を行い今回の震災支援ワークキャンプ活動が始まりました。
2016　年春、実際にキャンプを実施。しかしエンジニアの不在等により水のワークは全く進みませんでした。メンバーは無念のまま帰国しました。また出直してキャンプを行おうとしましたが、FIWC 関東には渡航できる現役キャンパーがいませんでした。そこで 2016 年の関東キャンプに九州から参加していたメンバーが九州委員会に持ち帰りキャンプの続行に至ったのがこのネパールキャンプの経緯です。ここからFIWC 九州として改めてメールダラ地区のチャップにて下見キャンプを行い、この2017 年春ネパール震災支援キャンプを実施することになりました。

以下、FIWC 関東委員会について
○FIWC 関東委員会

FIWC 関東は全国の委員会の中でも最も歴史が長く、フィリピン・中国・韓国・ネパールにて活動を行っています。

【フィリピンキャンプ】
フィリピンレイテ島メリダ市にて、インフラ整備を村人と共に行いながら交流を図る。

【ネパールキャンプ】　ネパール西部パルパ郡を中心に日本人コーディネーター監督の元、インフラ整備を村人と共に行いながら交流を図る。

【中国キャンプ】
中国民間 NPO－JIA-の海南地区委員会と協力して、中国のハンセン病快復村の支援活動を行う。

【韓国キャンプ】
　韓国外国語大学ボランティア団体ハナフェと共に、韓国のハンセン病快復村の支援活動を行う。

FIWC 九州委員会

FIWC 関東委員会

3. ネパールについて

・地理

ネパールは中国とインドの間にある内陸国で、北海道の 2 倍ほどの大きさである。北には 8000m 級のヒマラヤ山脈があり、首都のカトマンズでも標高 1400m ある。

・気候

ネパールには乾季と雨季が存在し、また昼夜の気温差も大きい点が特徴的。朝は冷え込んでも、昼になると半袖シャツ 1 枚で過ごせるくらい暖かくなるので日本人にはなかなか慣れない気候である。反面、湿度は低いので過ごしやすい気候となっている。

・文化

宗教ではヒンドゥー教が大多数で、中には仏教徒も見かけられる。また、100 以上の民族が暮らしており、お互いに理解しあいながら共存している。女性が着るサリーは代表的な民族衣装で街中でもよく見かけられた。公用語はネパール語で、インドで話されているヒンディー語とよく似た形をしている。その他にも民族によってタマン語やネワール語など独特な言語がある。

・

4. スケジュール

キャンプ前スケジュール

11/02(水) 第 1 回ネパールキャンプ説明会@伊都キャンパス

11/14(月) 第 2 回ネパールキャンプ説明会@あすみん

11/23(水) キャンパー募集締め切り

11/28(月) 第 1 回事前 MTG@びおとーぷ
12/10(土) 第 2 回事前 MTG@びおとーぷ
12/15(木) 第 3 回事前 MTG@びおとーぷ
12/19(月) 第 4 回事前 MTG@びおとーぷ
01/19(木) 第 5 回事前 MTG@びおとーぷ
01/26(木) 第 6 回事前 MTG@びおとーぷ
01/28(土) 第 7 回事前 MTG@びおとーぷ
02/09(木) 第 8 回事前 MTG@びおとーぷ
02/22(水) 第 9 回事前 MTG@びおとーぷ

※福岡にいないメンバーとはスカイプ等を通して MTG を行っていた。

キャンプ日程

2 月

11 日	Sat	くるみ日本出発
12 日	Sun	くるみカトマンズ到着
13 日	Mon	うみ、ゆうか、エンジニアたちとの MTG
14 日	Tue	村人との MTG
15 日	Wed	スキルワーカー決め
16 日	Thu	バネパにて資材注文
17 日	Fri	くるみラムチェ村到着
18 日	Sat	くるみラムチェ村滞在
19 日	Sun	くるみバネパで得た資材を村まで運送
20 日	Mon	ワーク開始　村人、エンジニアらと MTG
21 日	Tue	
22 日	Wed	おーちゃん日本出発
23 日	Thu	
24 日	Fri	
25 日	Sat	
26 日	Sun	こうへい、りりこ日本出発
27 日	Mon	こうへい、りりこ、おーちゃんカトマンズ到着　くるみと合流村へ
28 日	Tue	

ワーク

3 月

1 日	Wed	
2 日	Thu	
3 日	Fri	
4 日	Sat	後発組日本出発
5 日	Sun	後発組カトマンズ到着　くるみ、おーちゃん、ミナちゃんと合流
6 日	Mon	村到着　先発組らと合流
7 日	Tue	
8 日	Wed	イベント運動会
9 日	Thu	こうへい、りりこ村出発
10 日	Fri	
11 日	Sat	イベント衛生教室　こうへい、りりこカトマンズ出発
12 日	Sun	ホーリー(祭日)　　こうへい、りりこ日本到着
13 日	Mon	ジャンボさん、うみ、ゆうか村到着
14 日	Tue	
15 日	Wed	しーやんさん村到着
16 日	Thu	ジャンボさん、うみ、ゆうか村出発
17 日	Fri	むー村出発
18 日	Sat	イベント日本語教室　　むーカトマンズ出発　なおとさん村到着
19 日	Sun	ワーク終了　　むー日本到着
20 日	Mon	オープニングセレモニーおーちゃん、しーやんさん、なおとさん村出発
21 日	Tue	追加のワーク　おーちゃんカトマンズ出発
22 日	Wed	村出発　ラムチェ村到着　おーちゃん日本到着
23 日	Thu	ラムチェ村出発　村到着
24 日	Fri	お別れパーティー
25 日	Sat	村出発　銀杏旅館到着
26 日	Sun	銀杏旅館出発　グループに分かれ観光　カトマンズ到着
27 日	Mon	JICA オフィス視察（本田さん）　ハンセン病コロニー関係者と夕食
28 日	Tue	ハンセン病コロニーを訪れる
29 日	Wed	カトマンズ出発
30 日	Thu	日本到着

ワーク

・村滞在時、土曜日は休日としてイベントを開催したり、各自自由に行動したりした。

・基本的にワークは日曜から金曜日の週 6 で行った。

・3/8(水)は国際女性デー、2/12(日)はホーリーという祭日であったため、村人に合わせてワークはお休みした。
・今回のキャンプでは、村に滞在する日本人の入れ替わりが激しかった。
※「村」の表記は、実際にワークを行ったチャップと呼ばれている地区がある「カリカ村」のことを指す（「ラムチェ村」は「ラムチェ村」で表記）なお、すべてのミーティングは MTG と表記している。

キャンプ後スケジュール

4/01(土) 第 1 回事後 MTG@あすみん
4/17(月) 第 2 回事後 MTG@びおとーぷ
4/22(土) キャンプ報告会

６．ワーク

Dharapani,Dvisthan DrinkingWater Supply Project

Reported by FIWC 九州・関東

○ワーク地

チャップ

世帯数：４９　人口：２４５人

＊内訳 チャップ中心：４３世帯 ２１５人　　チソパニ：６世帯 ３０人　シンドゥパルチョーク群カリカ村は９つの地区に分かれており、その内の４の地区にチャップという地域は属している。その中でも中心とチソパニという小さな地区に分かれる。地震前は６３世帯住んでいたが、地震の被害により親戚の家などに引っ越す家族が多く、世帯数が減少した。

・シンドゥーパルチョーク郡ネパール北部山間部であるこの地は特に大きな揺れが観測された震源地の近くであること

から被災率が高いことが報告されている。多くの村で家の崩壊、土砂崩れ等が起きている。

トタンの仮設住居

実際このチャップ村でも家は地震によって崩壊し、トタンで作られた仮設住居が多く見られた。地震から 2 年がたち政府からの援助金がおりたことにより家の再建が始まっている。

●ワーク概要

～Dharapani Dvisthan Drinking Water Supply Project～場所：
Sindhupalchok 群、Kalika-4,Chapa
期間：2 月 20 日～3 月 19 日の 24 日間（土曜、祝日は休み）参加者：FIWC メンバー、村のボランティア、コミュニティ（※)、村のスキルワーカー
※コミュニティ・・・7 人の村人で構成されたワークの責任を持つ委員会。このメンバーで、資材の管理、ワークの時間、ボランティアの管理、進行状況の把握など行ってくれた。

●問題点

震災（2015 年 4 月）後、地盤の変動により長年使われていた水場であるデビスタンの水が枯れた。緊急でダラパニ（水源）から水を引いたが、村全体分の水を賄うことはできなかった。水の枯渇状態は約 1 年以上続いた。雨季（2016 年 7 月）になり、デビスタンに水が戻ったが、村人たちは乾季になるとまた水が枯れると危惧していた。実際、乾季（2016 年 2 月）になると水量はかなり減っていた。また、デビスタンのタンクもダラパニのタンクも破損があり、水量が少ない上に貯水能力も低い状態であった。

●ワークの目的

ほぼ全ての村人が飲み水や生活用水を確保するために、毎日水を汲みに来るデビスタンの水場。このデビスタンのタンクが乾季にも安定して水量確保ができるように改良工事を行った。

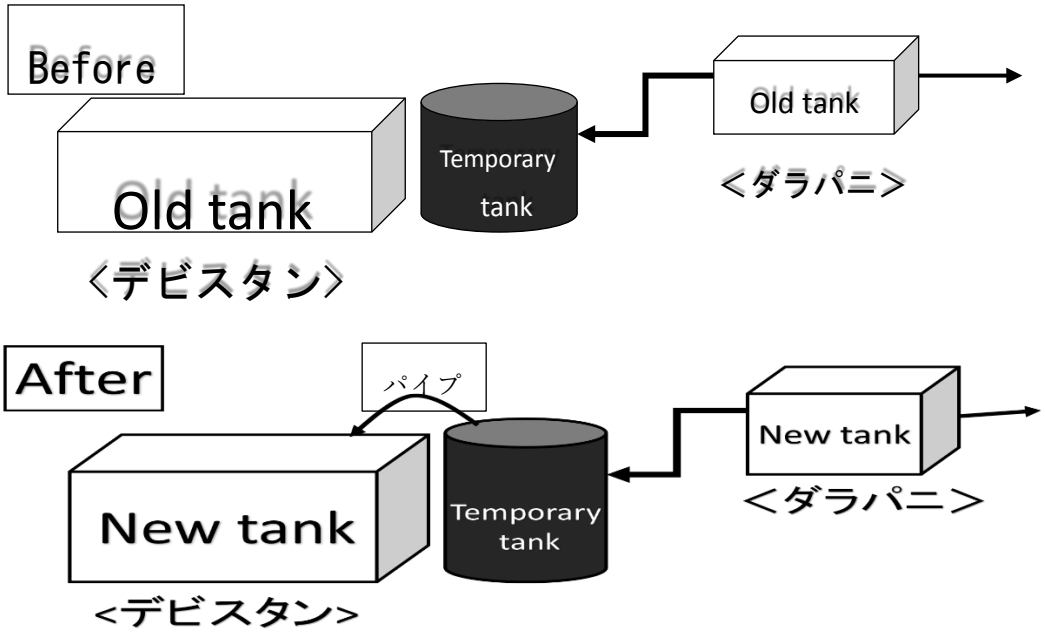
（2016 年 3 月乾季のデビスタン）

●ワーク内容

（１）デビスタンのタンクの改良工事

（２）ダラパニという水源の水量増幅工事

→（１)、（２）を完成させ、ダラパニからデビスタンに水を引いた。



（標高：デビスタン 1275m、ダラパニ 1286m）

（１）デビスタンのタンクの改良工事

（工事前のデビスタンの様子）

Step1:旧タンクを壊す

（旧タンクは水が垂れ流し状態で貯水されていなかった。また、所々破損も見られた。）

（タンクのフタを取る様子）

（旧タンクを撤去した様子）

Step2:タンクづくり（フタ以外）

①石を積み、セメントで固める

（タンク建設の流れ）

②タンクの側面、内側をセメントで整え、水漏れがないようにウォータープルーフを施す

砂とセメントを混ぜたコンクリートで内側の側面と底を整える。左側の石が見えている箇所はコンクリートを塗る前で、正面がコンクリートを塗った後。

セメントと水と特殊な水漏れをしないようにする液体を混ぜたものをタンクの表面に塗ることでウォータープルーフを施す。丸で囲っている少し色の異なるところは、まだウォータープルーフを施していない箇所だ。

Step3:タンク周辺の環境を整える

①両側に壁をつくる

まず細長い石や大きいなど様々な大きさの石を積み重ねる。その上からコンクリートで形を整える。（コンクリートで整えた後の写真は下記の②の写真右を参照）これは水場を使いやすいように整えるだけでなく、水場への土砂崩れ防止にもなる。

水場を使いやすいようにするために階段も設置。この壁を作るために大量の土を掘った。出た土は近くの道の凸凹をフラットにするために使った。

②床を水が流れるようにコンクリートで整える

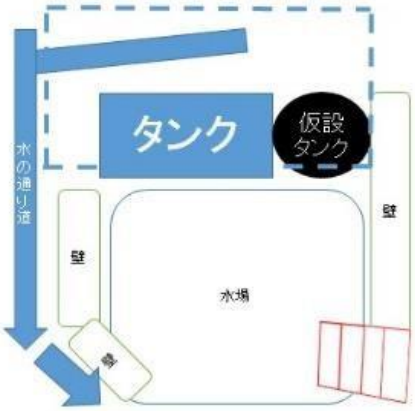
まず床に石を敷き詰めて、その上からコンクリートを流し込んだ。

床は右側に行くにつれて低くなっており、水が床に溜まらないようなっている。

③震災直後に使用していた仮設タンク（黒）の設置

④洪水時用の水の通り道をつくる

上から見た全体図



（手前のパイプはメインタンクに繋がっている）貯水量を増やすために、ダラパニからの水を一度仮設タンクに入れる。仮設タンクの水がいっぱいになったら、メインタンクにオーバーフローするようになっている。また仮設タンクにも蛇口がついている。

タンクより高い位置にある土や石が、雨季の降水などタンクに流れないようにするために水の通り道をつくった。矢印の方向に水が流れていくように石や土で、丘（写真中央）をつくったり、写真左側を深く掘ったりした。

⑤柵の設置

元々のタンク周囲で使われていた柵は、木や竹でできており倒れかけの状態だった。ヤギなどの侵入を防ぐために、鉄柵に有刺鉄線でタンクを一周囲った。タンクの修理や管理等で柵の中に入る際は、入口が一つあり、その入口の鍵はコミュニティで管理する。⑥水源をコンクリートで整える

これまで水源とタンクはホースで繋がっていたが、金属パイプに取り替えた。（写真左）パイプ入口付近はコンクリートで整えた。（写真右）

Step4:タンクにフタをする

①木や竹でサポートを作る。

（木や竹でタンクの底から上の木材を支えている）

②その上に木や竹、トタン、ビニールの順に置いていく。中に鉄の棒を入れることで強度を保たせる。

③そこにコンクリートを流し込む。

④ ①で取り付けた、フタを一時的に支えるサポートはフタが完全に固まるまでの約 2 週間、そのまま放置する必要があったので、後で村人たちに外してもらうようになっている。
帰国から二週間後、サポートを取り除いたと連絡をもらっている。

デビスタンのタンク完成

（２）ダラパニの水源の水量増幅工事

（元々のダラパニの様子）　（増水工事前の湧き水が出ていたところの様子）

Step1:元々、少し水がしみ出ていたところを更に掘り、湧き水の増水

Step2:水の通り道をコンクリートで整える

（壁となっているところの下部から水が湧き出ている）

Step3:タンクにパイプを取り付ける

左側のパイプはデビスタンへ、右側はチソパニに繋げた。（チソパニとはチャップの隣に位置する小さな集落で、その集落の人達は震災後、片道数十分かけてダラパニ付近まで水を汲みに来ていた。ダラパニからチソパニにパイプをのばすことで、水汲みにかかる時間が半分ほどになる。）

Step4:タンク周辺の整備

①フタをするフタの型に鉄の棒を入れ、コンクリートを流し込んで固めた。それを空きっぱなしだったタンクの上に置きフタにした。

②壁を作る

タンクの上部は人もよく通る道になっているので、雨季の時などの土砂崩れに備えて壁を作った。

③柵をつくる

デビスタン同様、動物の侵入防止等のために、タンク周辺を柵で囲った。

ダラパニのタンク完成

→最後にダラパニからデビスタンにパイプを引いた。パイプはほぼ全て、土に埋めた。、外に出しっぱなしだと、黒のパイプの中を通る水が熱くなったり、動物に踏まれて破損する恐れがあるからだ。

○オープニングセレモニー

ワークが終了した翌日、水場を使い始める前に村人たちにオープニングセレモニーを開いてもらった。完成の祝いと儀式を行った。村人はもちろん、チャップ以外からも多くの人が集まった。また、新聞記者も２人訪れており、取材された。

※ワーク振り返り

●安全面・健康面

×十分な休息をとらなかったために体調不良者がでた

<改善案>・5 分間休憩を予定に組み込み、休憩場所として日陰を確保する

・保健係とワークリーダーで連携し、キャンパーの健康状態を管理する

×普段慣れていない重労働をするためケガのおそれがあった

<改善案>・声掛けをするなど、工事現場の基本を学ぶ

×ミネラル水と村人の水が混じってしまい、お腹を下す可能性のある水を飲んでしまった
<改善案> ・ペットボトルに日本水と書いておき、村人にも注意しておく

×半袖、短パン、クロックスなど肌の露出が多く危険であった
<改善案> ・長袖、長ズボン、靴下、軍手、帽子の着用を義務付け
・ワーク用のつなぎを購入

●金銭面

△スキルワーカーの賃金が高い
…今回、技術者であるスキルワーカー達には 1 日 1000 ルピー支払ったが、ネパールで過ごしてみて、ネパール人の平均日給を考えると技術者であることを考慮しても少々高かった可能性がある。
村人にボランティアという意識をもって参加してもらえるよう交渉が必要である。

●ワーク面

×情報の共有不足
<改善案> ・各日の作業目標を設定する。
・ワークの進み具合、作業内容を随時共有する。
・ワーク会計をキャンパーに報告する。

×ワークのタイムスケジュールが疎かだった
<改善案> ・FI 側がワークの進行状況の把握・管理を積極的に行う
・FI 側がワーク時間を管理する

×日本人がいない場ではネパール人の仕事が雑だった
<改善案>・各作業場に一人以上日本人がいるようにし、ネパール人だけで作業させない

●全体

◎ワーク費の不足がなかった
追加で工事費が増えることはなく、事前に組み立てた予算内で収めることができた。

◎昼食をネパール人ととることで交流できた
昼食・・・昼食は日本人がつくり村人にも振る舞った。その際、ネパール人の舌にもあうように味付けを教えてもらうため1日500ルピーでコミュニティの一人に手伝ってもらった。この５００ルピーと材料費はワーク費から出している。

◎朝ワーク前の呼びかけを行い、効果が見られた。

※問題点

ワークではいくつかの問題が起こったため、対処が必要であった。

○公共の土地問題　上記に示したようにタンクの周りに動物の侵入などを防ぐための柵を立てた。村人数人と行ったミーティングで柵を立てることに対して許可を得たが、そのミーティングに参加していなかった村人から「柵を立てたことにより、毎日使う道が狭くなり車や牛が通りにくくなってしまった」と抗議を受けたため、緊急で道を広げ、その村人との問題は解決した。
今回、柵を立てることについてタンク周辺に住んでいる村人に確認していなかった為、このような問題が発生した。

☞公共の土地を工事する場合であっても、村人にそのことをあらかじめ伝え確認をとるべきである。

〇労働費　キャンプ事前 MTG では、村人に対して労働費を支払うかという議題について幾度となく話し合った。FIWC 九州は通常労働費を支払わない。しかし、今回のキャンプ地であるネパールは震災を受けて間もなく、今もなお村人は震災で崩壊した家の修理に追われているうえにその日を生きる為の農業の仕事で手一杯である。そのような状況の村人に、無報酬でワークの手伝いをしてもらうのは最善な選択なのか、という葛藤のなかでの話し合いの末、私たちは、ボランティアとしてワークに来てほしいと考え労働費を支払わないことにした。

☞今回のワークでは労働費を支払わなかったが、今後もこのような問題が起きるかもしれない。その際は、賃金を払うことによって生じる日本人と村人との関係性の変化・村人間での問題、村全体への影響等を考慮するべきである。賃金を払った場合には払わない場合のキャンプとどう異なってくるのかが問題となってくる。

〇ボランティア

村人がワークを手伝いにきてくれるように、呼びかけやイベント、ダンスなど様々なことを行った。効果があらわれたものもあったが、一時的なものや効果がないものもあった。ワークに毎日来てくれる人がいる一方、タンクは使ってもワークに全く来ない人など、村人のワークに対する姿勢は様々であった。

◎村人をワークに呼ぶためにとった対策

・村人と遊ぶ際にワークへきてくれるよう声をかけた

☞声をかけるだけでは影響力が低く、効果はみられなかった。

・FIWC についての説明、ワーク概要、ワークにきてほしいという旨をネパール語で書いたポスターをもち村人の家を一軒ずつまわり説明していった。

☞それまで FIWC をあまり知らなかった村人にも理解してもらうことができ、村人のワーク参加が増えた。

偏りがちな村人との交流も全家をまわってことによって幅広く交流できた。

ワークの際に村人の協力は必須であるため、できるだけ多くの村人にワークへ参加してほしい。しかし、村人との連携の仕方はまだ試行錯誤の段階である。

ワークキャンプを村人と協働して行うために、FIWC として考えていかなければならない課題でもある。

ポスターを持ち村人の家を回る様子

●ワーク費詳細

（NRs：ネパールルピー）

○収入

内訳	金額（NRs）	備考
FIWC 関東 OB.OG からの寄付金	479,610 （ 513,700 円分）	内訳 600,000 円→ NRs.560,400 （レート 0.934） NRs,90,000→96,300 円（レート 1.07） 10,000 円→NRs.9,210（レート 0.921）
TAP	49,000	
合計	528,610	

○支出

内訳	金額	備考
道具…①	16,600	ワーク用道具はほぼ FIWC が購入。 今後、必要な時のために銀杏旅館にて保管してもらっている。 下記詳細参考。

資材…②	233,655	下記詳細参考
資材運搬交通費	37,000	
スキルワーカー給料	81,000	スキルワーカーを５人雇った。 1000 ルピー/日。
昼食調理費（※２）	9,600	３の昼食を参照
昼食食材代	16,635	３の昼食を参照
コーディネーター費	60,000	NRs.1,500/日×40 日分
くるみ滞在費（2 月分）	5,500	ステイ先マミー家での生活費（くるみ）
移動費	62,700	空港―村間のメンバー移動のためにジープ費。
合計	522,690	

（収入）―（支出）＝NRs.5,920・・・FIWC 関東に返金

① 道具費詳細

道具名称、またその数	金額	備考
ペイント用ブラシ	50	
チナ 6 インチ	220	石をたたく棒
チナ 12 インチ	320	〃
チナツルゥ	400	〃（大）
ジャベル×２	180	セメント伸ばす、一個破損
ダゴ	120	白い糸

ガンティ	120	ダゴをひっかけて高さを均一に合わすために用いる
グルマラ×２	100	ウォータープルーフセメントを伸ばす
タールゥブロス	135	石の砂をとる道具
タンク用ブラシ４インチ	140	
イスプリットレバー	150	水平を測る
３ｍメジャー	55	
ザリロキシ	250	砂石を分別する（大）
ザリマシノ	240	〃（小）
ヒーティングプレート	1450	パイプを溶かす
トーフレンドプレート	700	ヒーティングプレートのカバー
ガルーランプ	1,600	
パイプレンチ 18 インチ	2,400	
パイプレンチ 14 インチ	2,100	
サライレンチ	500	
ハックスプレーム	180	パイプなどを切る
ブレード	145	替え刃
ペンチ	250	
シャベル×４	1,040	
ピック×２	760	
カライ×4	680	セメントを運ぶお盆
２キロハンマー	440	
１キロハンマー	220	
カッティングハンマー	300	
バケツ×４	1,290	

グローガル	1,050	石を砕いたりする鉄の長い棒
ディスカウント	-985	
合計	16,600	17,585-985

②材料費詳細

材料費	金額	備考
釘 3 kg	300	
セメントペイント	120	接着剤
ウォータープルーフ　10 kg	2,050	
鍵（フタ用）	300	
パイプ 300m	45,000	
パイプ NS 60m	15,400	
ニップル ×26	8,940	金属パイプの繋ぎ目
ソケット × 6	1,250	金属パイプをつなげる
ジャイソケット 2 インチ × 3	650	〃
ジャイプロック 2 インチ× 3	540	フタ
ブラスユニオン× 5	2,810	パイプと鉄のつなぎ目
ジャイエルボ	1,635	L 字パイプ
ジャイソケットハーフインチ× 4	160	
ブラスダラ× 2	540	蛇口
セロテープ	200	
柵、タンク天井のフタ	30,000	
セメント 60 袋	49,200	
バウンドワイヤー 5 kg	600	針金
プラスチック 35m	1,225	
12 ㎜ワイヤー	8,240	

有刺鉄線 55 kg	5,275	
インク（柵用）	750	二重塗装の 1 回目のインク
インク（柵用）	850	2 回目
オイル（上のインクに混ぜる）	300	
柵修理費	500	
ソケット追加× 2	160	
セメント追加× 6	5,340	
モニュメント	6,700	
ブラスユニオン追加× 2	160	
仮タンクのフタ	400	
砂	24,000	
石	19,500	
蛇口追加	560	
合計	233,655	

7. イベント報告

現地の人々との交流を図るためイベントを計 3 回行いました！

第一回：3 月 8 日（水）運動会

1．パン（カントリーマアム）食い競争
2・だるまさんが転んだ
3．ドッジボール

広場で小さいこどもから青年まで集まり、はしゃぎました。

第二回:3 月 11 日(土)衛生教室

歯磨き教室

１．寸劇

２．歯垢染色剤を用いて歯のチェック

３．歯磨き

★寸劇では歯磨きをすることによって虫歯菌を除去する大切さを確認。歯石が色づく試薬を用いて自分の歯を確認。その後みんなで丁寧に
歯磨きをしました。

第三回:3 月 18 日(土)日本文化伝えようの会

１．日本語教室

２．じゃんけん列車

３．馬跳び競争・大縄

日本語教室では、よく使う日本語を英語、ネパール語で確認。みんなで大きな声で復唱していました。

次は日本の遊び文化。ネパールにはないじゃんけんの文化を教えるところから始まり大人も子供もひとつの
列車になったり、馬跳びをしたりと大盛り上がりでした。

★おやつに日本のお菓子として白玉団子を配りました
（＾＾）

～総括～反省点としては日中日差しが強かったため休憩時間を作る等考慮が必要だったことがあげられた。また第三回で白玉団子を提供したが、村人の中に食物アレルギーを持つ人がいた場合のことを考えて提供する前に原料の説明があったほうがよかったという意見もあった。イベントに来てくれた人を FIWC のワークに興味を持たせることがなかなか出来なかったのも少し残念だった。しかしどのイベントも事前の呼び込みやポスターのおかげでたくさん人が来てくださり楽しいイベントとなりました！

Pretty
かわいい

8. 生活状況

〇衣・〇食・〇住に分けて紹介していくワン！

まずは〇衣！

昼は半袖でも暑いほどだが、朝晩はかなり冷え込むため、ダウンを持ってきている人が多かった。寝るときは寝袋の質にもよるが、温かい格好をして、靴下を履いた方がよいと思われる。ネパールはそんなに寒くないと予想していた薄着のキャンパーたちはエマージェンシーシートで夜の寒さをしのいでいた。

ワーク時はセメントによる肌荒れ防止や日射病予防のため、基本長袖長ズボンに靴下、帽子、軍手、マスクが必須！キャンプＴシャツは目立つし乾きやすい素材のため、普段着としてみんなよく着ていた。

＊民族衣装編＊

３月８日は国際女性デーということで、女性キャンパーはネパールの民族衣装であるサリー、クルタを着た。サリーは着るのがとっても大変。民族衣装といえばスカートのサリーのイメージがあるが、普段着としてはパンツスタイルのクルタを着ている人の方が多い印象。

※国際女性デーとは、1904 年 3 月 8 日にニューヨークで、女性労働者が婦人参政権を要求してデモを起こし、ドイツの社会主義者クララ・ツェトキンが、1910 年にコペンハーゲンで行なわれた国際社会主義者会議で「女性の政治的自由と平等のためにたたかう」とした記念の日。

＊洗濯編＊

料理と洗濯はその日のKP(キッチンポリス）というシフト制で３人が担当。最初はワークを行っている水場で洗濯していた。しかし洗濯するスペースがなかなか確保できなかったので、邪魔にならないように、少し離れたところに湧き出ている水を使い洗濯を行った。基本的に洗濯は手洗い(踏み洗い)である。

ちなみにお風呂は水浴びなので、水場で服を着たまま洗って水で流す。凍えてしまうので陽が出ているうちに！

＊装飾編

ティカ

額の印

神から授かった恩恵を表すもの

ティカは普通既婚女性がするものですが、祝福の印として男の子や

子供もするのだそう！

ツーラ

ネパールの女性のアクセサリー(腕輪)

日ほどで徐々に消えていくつけると縁起が良い

と村人が言っていた

サリーを着るときにも

みんなつけるそう！

ヘナタトゥー

ヘナという植物の葉で肌染めるもの。人にもよるが１週間～10

続いては力の源、◯食！

食事は全て自炊で、その日の KP が担当。
主な食事は…

＊朝：チャイ(甘い紅茶のようなお茶)、クッキー（近
くの商店で安く購入可)、ご飯、ふりかけ

＊昼：タルカリ(カレー味の野菜などのおかず)とチウラ(米を蒸して潰して乾燥させたもの)or チャウ
チャウ(インスタントラーメンのイメージ)

＊夜：ある食材でできる美味しいもの

昼食はワークを一緒にしてくれている村人にも提供する。そのため村人に味付けをしてもらい、みんなが食べやすいようにした。辛かったりしょっぱかったりするのでパニ(水)がいっぱい必要。でもやっぱりワークで疲れたときに村人と外で食べるご飯はミトチャ～(´▽｀)ミトチャ～はネパール語で「おいしい」！覚えやすくて使いやすいこの言葉は滞在中大活躍(^^)/

＊食材編＊

ネパールはじゃがいもが安いのでタルカリなどを よく食べる。巨大カリフラワーもよくタルカリに入っていた。玉ねぎや人参もある。

道端に咲いている赤い花は国花のラリグラス。
この花はなんとそのまま食べることができます！
おいしいかどうかは…。

＊買い出し編＊

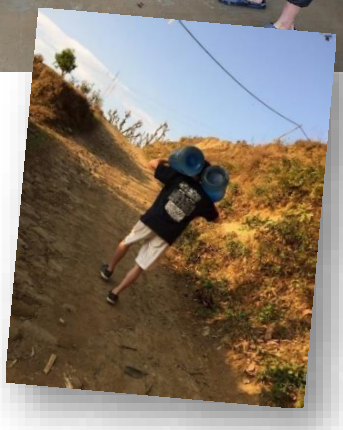
野菜などの食材は、村からトラックで約 1 時間弱降りたところにあるスクテという場所に週 1 回買いだしに行った。クッキーやチャウチャウ、鶏や卵は、村から歩いて約 10 分上ったところにあるメールダラの商店で個人的に購入。

＊日本食編＊

毎週火曜日は日本食の日と決めていたので、ハヤシライスや日本のカレー、シチューを作った。ルーは日本から持参。そしてキャンプ中間日には親子丼！鶏肉は鶏を生きたまま購入してその場でさばいてくれるのでとっても新鮮！なんと、ネパールでは高級食材であるヤギもいただくことができたので、カレーはヤギ肉入り☆

＊水汲み編＊

料理や皿洗い等何かと欠かせない水は、毎日デビスタンでタンクやバケツに汲んで家まで運ぶ。急な坂道を上るので結構重労働！最終的には罰ゲーム的存在となっていったが、とても大事な仕事。村人たちも毎日デビスタンの水を汲みにやってくるので、並ぶこともしばしば。私たち日本人は飲まないようにしていたけれど、デビスタンの水は村人の飲み水になっているほどきれい。



＊茶飲み小屋編＊

メールダラには茶飲み小屋がある。ミルクチャイが10ルピー(約10円)で飲むことができる。とっても美味しい。私たちは朝ごはん前に行くことが多かった。朝早くから村人も利用しているので、交流の場ともなった。

＊伝統料理編＊

ダルバートタルカリ

ネパールの代表的な家庭料理。ダル＝豆スープ、バート＝ご飯、タルカリ＝おかず、という意味。ご飯の上にのっているのはアチャールという漬物のようなもの。

モモ

小麦粉を薄く伸ばした皮で具を包む、ネパールでの小籠包や餃子に類する料理。

チョウメン

中華移民系の多い地域で食べられる日本でいうところの「焼きそば」のような料理

最後は〇住について！

マミー家の建設中の新しい二階建ての家を貸していただいた。扉が 2 つあり、左は寝室兼リビング、階段を上がると寝室兼物置、右がキッチン。

よく停電するので懐中電灯は重宝する。携帯の充電がなくなって写真が撮れなくなる人もいたので、モバイルバッテリーがあると便利。

リビング

キッチン

＊夜の過ごし方編＊

夜はマミー家の前で村人とダンス♪スピーカーから大音量で音楽が流れる。ダンスは不定期に開催され、寝る時間だからと日本人が言うまで基本終わらない。

村人はダンスが上手で、特に村の若者はキメキメで踊り、子どものダンスはかわいい。キャンパーたちは、なんとか村人たちの真似をしながら踊った。

＊ホーリー＊

ホーリーとは、ヒンドゥー教の春の訪れを祝うお祭りのことで、いろんな色の粉をつけ合ったり、水を掛け合ったりする。この日は「ハッピーホーリー！」と楽しむ日なので、どんなにひどい姿になっても怒らないのがルール。汚れていい服で参加した方が良い。干していた洗濯物は赤く染まってしまった。この日の KP は洗濯途中に粉をつけられながらも洗濯物を守って
いてかっこよかった。

＊仲間たち＊

犬、牛、ヤギ、鶏など、いろんな動物と共に生活している。犬は番犬、牛は畑を耕してくれる。ヤギと鶏は家畜として飼われている。

KP とは？

「キッチンポリス」の略！
KP の主な仕事は
① 毎日の料理、洗濯班のシフト作成
② 食材、洗剤の管理
③ キッチンの管理
の 3 つ！！

今回のキャンプでは毎日キャンパーの中から 3 人料理洗濯班を選び、選ばれた 3 人はその日はワークに参加せず、家事に専念するといった具合で進めていった。また、昼ごはんは村人と一緒に食べたため、昼ごはんの村人と共有する食材は日本人キャンパー用のものとは分ける必要があった。これらが混じらないように日ごろから食材の分類をし、何が足りなくなっているのか適宜チェックをしていった。キッチンでは定期的に掃除をしないとハエの発生の原因にもなり、特にコンロ周りは火を扱うため危険であるので、毎日の清掃を心掛けた。

○KP の反省

・シフトをもう少し考えて作成すべきであった　できるだけ同じ人同士で何回もシフトに入ることがないように、みんなが同じ回数だけシフトに入るように心がけて作った結果、ある人は 1 週間シフトに入ることはなかったのに、ある人は 1 日置きで入るなど人によって日程のばらつきがあった。KP のシフトは日ごろのワークの息抜き、気分転換として考えられていたので、1 週間シフトに入らなかった人はワークが毎日続き、他キャンパーよりも精神的に苦しい思いをさせてしまった。また、キャンプ中に誕生日を迎える人を誕生日にシフトに入れてしまったことも反省である。

・その日の KP 担当の人への負担が重かった　本来 KP のシフトに入った日はいつものきついワークの休息日としての意味合いが強かった。しかし、3 食分の料理と洗濯を 3 人で回すと時間的にはギリギリとなり、KP 担当の人は食後の食器洗いもするため、ともすると通常のワークをしていた人たちよりも負担が多くなってしまった。

・1 日に使う食材の量をコントロールできなかった　今回は車で 1 時間弱かかる町で食材を購入したのだが、その遠さ故に 1 週間に 1 回曜日を決めて買い出しに行くことにしていた。そのため食材の在庫がなくなってしまう事態だけは避けたいことであり、

気を遣う必要があった。しかし、どのくらいの量を使っていいかわからない序盤などは使う量をコントロールできず、買い出し前日などは使用量をセーブしなければいけない結果となった。

ワークだけでなく
料理つくったり、洗濯したり
一か月の共同生活は大変！！！

③部屋をきれいに保つ
④部屋とキッチンの鍵の管理
⑤洗濯物の管理

そんな生活を管理するのは

→ LP！

ズバリ、「ライフポリス」の略です！

その名の通り LP のお仕事は

①生活全般の時間の管理
②朝みんなを起こす

など、みんなの生活を守ること！

例えば、「〇時から××だから急いでねー！」と呼びかけたり、「朝だよー！」と起きていない人を起こしたりする。起きたらすぐに寝袋を畳むよう促すのも LP の仕事。通称『闇ボックス』という、誰のものかわからないものをとりあえず入れる箱を用意したが、これは掃除の際に役に立った。夜は洗濯物を部屋の中に取り込むようにしていた。畳まれた自分の洗濯物を回収するよう呼びかけるのも日課であった。鍵は部屋用とキッチン用にそれぞれ 2 つずつあったので、副リーダーと 1 つずつ持っておき、他のキャンパーが鍵を開けたいときはどちらかに借りるというシステムにしていた。

〇LP の反省
・部屋の片づけを早い時期から呼びかけるべきだった
↳寝袋や乾いた洗濯物の放置が目立った。途中から失くしものをする人が増えてきたのでそうなる前に最低限の整理整頓を促す必要があったと思う。
・洗濯物の管理がうまくできなかった
↳ハンガーが徐々に減っているように感じたので、最初に個数を数えておき、使ってないときは部屋に置いておくべきだった。また、下着や靴下の紛失がいくつか報告された。その要因として、畳んだ洗濯物の放置と服に名前が書かれていないことも挙げられると思う。まずは回収の促しと、名前の記入の呼びかけをもっとすべきだった。
・物を破損したときに報告していなかった
↳キッチンの水のタンク、ピーラーがキャンプ中に破損していたことが事後ミーティングで挙げられた。破損したときに報告するという決まりがなく、把握しきれていないところがあったので、そのような決まりを予め設けるのが良いと思う。
・鍵の管理が徹底できていなかった
↳鍵のまた貸しによる紛失未遂が起きた。もし本当に紛失してしまったら一大事である。鍵は非常に大切なものである。LP が責任を持って、毎回誰かに鍵を貸したら返してもらっ

て別の人に貸すようにし、毎日ミーティングで鍵の確認をするのが望ましい。

部屋

ほうきではわく様子

9. 保健係

仕事内容日本で…

・アレルギーや持病，常備薬の把握

・予防接種，保険加入の呼びかけ現地で…

・保健バックの携帯

・キャンパーの体調管理

日本から持って行った薬リスト！ぜひ参考にしてね！

・粉末ポカリ 1L 用 25 袋

・正露丸約 30 粒

・ザ・ガードコーワ整腸錠約 100 粒

・エクトール赤丸(下痢に)18 錠

・熱さまシート 8 枚

・オロナイン H 軟膏約 10 グラム

・マキロン 1 つ 100ml

・液体ムヒ約 25ml

・ガーゼ 1 m
・絆創膏小 10
枚　中 60 枚
大 4 枚
・イソジンうがい薬約 10ml
・バファリン A 錠 20 錠
・バンテリンゲル約 10g
・防水テープ
・マスク 60 枚
・爪切り 1 つ
・ハサミ 1 つ
　この他にもキャンパーが貧血の時に村の薬局に薬を買いに行ったが，的確に病状を伝えること，また相手の説明を十分に理解することが上手くできなかったため，できるだけ日本で準備していくことをお奨めする。

必要と思ったもの

・現地病院の場所と行き方を調べとく（←緊急時に役立つよ）
・予防接種の徹底
・長袖長ズボン、長い靴下、軍手、←ワークには必須だよ。すり傷はこれで防げる。
・カッパ　←ぬれると風邪ひくよ
・厚手の寝袋←ケチって安いの買うと寒さで夜何度も起きることになるもんね
・帽子

役に立ったもの

・カッパ←夜着るとあったかいよ。
・生姜入りのチャイ←冷えた体を温める。現地で作った！
・エマージェンシーシート（下写真のオレンジや
シルバーのシート）←防寒用に役立った。

その他

腹痛気味の人や，辛いのが苦手な人用に，朝に炊いたご飯でお昼にお粥を作った。喜ばれた。

反省点

・予防接種の徹底ができていなかった。破傷風，A 型肝炎，腸チフス等，日本では感染する可能性の極めて低い感染症にも，海外ではかかる恐れがある。交通が不便であり，尚且つ不慣れな現地の病院で治療を受けることはリスクが高い。
・ワーク時の服装がセメントを扱うには軽装過ぎた。水を含んだセメントは皮膚をカサカサにし，傷口に入るとそこで固まり皮膚の色が変色していた。クロックスではなく靴下，運動靴を履き，軍手，マスクをして作業すべきだった。
・近辺の医療機関の情報を事前に調べ，緊急時の対応法を共有しておくべきだった。
・ワークを頑張り過ぎている人へのケアが不十分だった。頑張りすぎた人が後半疲れとワークが終わっての安心感で体調を崩したのではないだろうか。頑張った人ほど折角の観光や，ワーク以外で過ごす時間を寝て過ごすことになってはとても勿体ないと思うので，体調面の管理をリーダー達とも共有して，無理をさせ過ぎないようにするべきであった。
下の写真は寒くてエマージェンシーシートにくるまるキャンパーたち。昼夜の寒暖差に驚いている様子。

10. 会計

大まかな項目での出費は以下のとおりである。

名目	金額
食費（村）	２７０２０NRｓ
食費（村以外）	１３２８０NRｓ
日用品	２１４００NRs
交通費（買い出し）	４５０NRｓ
ホテル代	３０５１１NRｓ＋１０４０２円
通信費	２１００NRｓ
個人費	４００００NRｓ
消耗品	６６０NRｓ

※96300 円＝9 万 NRｓ、15000 円＝13800NRｓ、10000 円＝9210NRｓで換金

項目について

食費（村）：メールダラに滞在していた時の米や水、野菜などの経費を含めている。
食費（村以外）：カトマンズやラムチェ村などへの移動中に食べ全体会計から出した経費を含んでいる。
日用品：ガスコンロや寝床としたマットなどある程度の期間使える備品に関する費用を含んでいる。これらは、銀杏旅館に保管させていただいている。
交通費：メールダラに買い出しに行く際にかかった交通費である。
ホテル代：入国や出国時に泊まったホテル代を含めている。
通信費：国内係との通信などのためのリチャージカード代である。
個人費：キャンパー各自が自由に使えるお金として分配した分である。

消耗品：洗剤やトイレットペーパーなどの費用を含めている。

会計としての感想と反省

生活費として、1万5千円を集めたもののやや足りなかった。そのしわよせが、食費にいってしまいキャンプ序盤で十分な野菜を買うことができなかった。また、全体の会計から出す範囲をしっかりと告知していなかったために、個人によって認識が異なりお金が足りない人も出てしまった。

現地で、ビル（領収書）をもらうことを基本としていたものの、ビルがないことや頼み忘れなどの理由によりもらっていないこともあった。そのため、日本からビルを持っていって書いてもらうようにするとよいだろう。

お金は常に、鍵のついたかばんを持ち歩いて保管していた。おつりは、もらった直後にカウントし正しいかを必ず確認するようにした。また、お金を渡すときもできるだけ二人で数えてから渡すようにしていた。このような徹底のおかげで、帳簿との誤差は一切生じなかった。

注意すべきこと

タクシーやホテルなどで、利用する前にお金をしっかりと確認していなかったために何度か料金を巡ってトラブルになった。タクシーの例では、3台で800NRｓという認識が1台800NRｓという認識の違いによって明らかに高い値段を払わなければならなくなった。また、ホテルの例は日本で予約した価格以下になると思っていたところ部屋の関係（一部アップグレード）によって高くなってしまった。交渉の結果、少しだけ高くなるということで妥協した。このように、利用する前に値段に関する交渉をしておかなければ様々なトラブルになり損失を被ることになりうるのだ。

おまけ

ネパール人は、お金を渡すときに左手を添える。この写真のようにお金を渡すと、よいだろう。

11. 感想

簡易版では、感想はリーダーのくるみのみ掲載してます。

くるみ

ネパールシンドューパルチョーク郡カリカ村４チャップにおいての水道システムの改善。これが私たちの今キャンプにおいてのワーク目的であった。しかし、私たち学生が、ネパールというこの遠い国で、なんの関わりもない人たちのための工事を行うのはただ単純に「インフラ整備をしに行った」という説明では言葉がたりない。支援活動を仕事にしているわけでもなく、日本にいる間は学生生活を送っている私たち。「ボランティア」としての活動を本気でしたいと思っている子もいれば、ちょっとした興味をきっかけに参加している子もいる。日本人の学生グループがネパールに一か月少し滞在して、ワークキャンプを行うことは私たちにとっても大きな「機会」であり単なる支援だけの場ではない。村人側にとってもそれは外国人が自分の村に滞在する刺激の「機会」であってこの工事には「水場が整う」という物事以上のものが伴っている。私たちが活動するうえで支えになっているこの考え方が私にとってはネックであった。ただ単純に「村人のため」では済まされない。ただ単純に水のタンクができるだけではいけない。そこには村人の今後の生活や、生き方、村人どうしの関係性、日本人との関係性、考慮すべきことは挙げればきりがなくて私はときどき誰のためのワークなのか、何のためにするのかわからなくなるときがあった。そもそも、ただ与えるだけの支援ではなくそれが村人の起爆剤になって自分たちで解決するようになってほしい、支援する・されるの関係ではなくそれ以上の関係性を築きたいというのはすばらしい考え方であるし、私もそう願うが、あくまでこれらは支援する側の要望でしかないと感じていた。それならば村に実際に滞在して、村人とともにミーティングでこのプロジェクトの計画をたてていくべきなのではないか。いくら下見として村に行って話し合いはしたといってもそれからのミーティングを日本に帰ってきて、日本人だけでしても日本人の要望が募っていくだけのように感じた。これが長期休暇を利用して渡航しているだけの私たち学生による支援活動の難しさであると思う。この難しさを今回のネパールキャンプメンバーは痛感したのではないだろうか。それぞれが考え、悩んだ。
２月に他のキャンパーよりも先に村に行った私は 14 人の日本人がそろってからの影響力の大きさを感じた。私は村人の生活にならって、そこにある空気になじむというのが好きである。だから、隣に座ってチャイを飲んで、できるだけネパール語ではなしかけて村人の文化に合わせる。でも、それは村人の生活の流れを変えることはできないし、自分で空気をつくることはできない。村に日本人がわたしひとりの期間、ワークも予定通りの時間には始まらないし、村人を呼びにいっても今日はもうちょっとしてから行くよと言われた時、それ以上は強く言えな

い自分がいた。ネパール人が始めるのは遅くても、仕事はサボらず終わりの時間が過ぎてもキリのいいところまでは作業を続けることが分かっているのもあり無理に朝早くする必要もないように感じた。しかし私ひとりのときはいいけれど、キャンプが始まって日本人と一緒に働くとなったときに時間を決めておかないとという気持ちと、できるだけ作業できるときにしておかないと予定日までに終わらないかもしれないという不安をどうすることもできなかった。どうしようもできず村人がきたらすぐに作業に取り掛かれるようにじゃあ道具だけでも出しておこうとひとりで道具だしをしたりしているとき、「なんで私はひとりでしているんだろう」と泣きそうになったこともあった。村人の空気に溶け込むことはできても自分で流れをつくることができないふがいなさがあった。そんな中、他のキャンパーが続々と村にきて、村人を巻き込んで場を盛り上げたりしていったことで、最初は全然笑わなかった村人の笑顔が増えてきたり、ワークに来た村人も楽しそうにしていて、わらいが増えたところをみて大人数でキャンプを行うことの大切さがわかった気がした。村人を巻き込んで場を盛り上げる人、日本語で話しかけたりする人、ひとりひとりと寄り添って話していく人、一人ができないことは他の人が補える。それを改めて感じた。

ワークが終わり、村人が何人も「デレデレダンネバード タンキーデレランムロチャ（とてもありがとう。タンクはとてもきれいだ)」と言ってきた。私はありがとうもごめんねも複雑な想いもすべて混じって涙をこらえることができなくて、泣きながら私もありがとうと言うことしかできなかった。村をでる前日に一軒一軒まわって挨拶しようと村周りをしたが、そこでも涙を我慢することはできなかった。単にみんなと離れるのが淋しいからではない。1年間この村のこのワークに携わってきてこの村のことを考えていた。よく知りもしない村であったけれど、必死に考えた。ワークにきてくれない人もいたけれど、毎日来てくれた人もいた。私たちの活動を応援してくれている村人もいた。わかってくれる人はわかってくれていた。私はそのことが支えだった。キャンプ中、ワークに村人がこないことが問題になったときがあった。けれど、私はもともとこの村になんの関わりもない日本人が勝手に来て工事を始めたのであって、それなのにワークに来てくれている人がいることだけでもありがたいことであると感じていた。いくら村のための工事であると言っても、始めたのは私たちである。村人の全員ではなくても誰かがワークに来てくれているだけで本当は涙がでそうだった。本当は来てくれている人の気持ちだけでいっぱいだった。問題点も反省点も言い出したらキリがないけれど、私はこの村でキャンプをできてよかった。他のキャンパーにとってもこの村が大切な場所であってほしい、と私は思う。

最後にキャンパー、寄付金を募って下さった関東の OB・OG の方々、様々なアドバイスをくださった方々、この 2017 年ネパールキャンプに携わってくださったすべての方々に感謝しています。ありがとうございました。これからも FIWC を温かく見守っていただけたらと思います。　　野中くるみ